

知的財産事例

株式会社アイガー産業

自ら積極的に動き、知財の知識を得た 「人のためになるものを創りたい」が原動力に

事業内容

1986年設立

建築設計・施工・建設工事全般の請負（住宅・マンション・オフィス・店舗・医院等の新築、改修工事等）

介護用ベッド『入浴タイムズ』製作販売事業

止水板 アクアブロック製造販売事業

知的財産権と内容

商標第6676467号	ニューヨークタイムズ（入浴タイムズ）
商標第6679219号	ニューヨークタイムズ（入浴タイムズ）
商標第6781871号	アクアブロック

他 特許・意匠出願中製品あり

(2024年3月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役社長 藤井 徳昭さん

社長に息づく“ものづくり”の信念が活躍の場を広げた

当社は1986年、藤井社長が26歳の時に設立。本業は建築会社であり、設計から施工まで自社で一貫して対応している。また、民間の仕事で鍛えられた経験を活かし、宮内庁、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、環境省、大田区等、公共工事も得意とする。造船所を営む家に生まれた藤井社長は、元々ものづくりを行う環境に面白さを感じていたという。そういった設計・施工力の体制もあり、「自社で世のためになるものを創りたい」という思いから、近年では建物を水害から守る止水板の開発にも力を入れている。浴槽とベッドが一体化した介護用製品『入浴タイムズ』の製作・販売事業も含め、今後も活躍の場は業界を超え、さらなる広がり期待されている。

弁理士の協力により展示会出品前に特許を取得

知財の取得を意識したのは、特許申請中である「アクアブロック」シリーズの開発中だった。これは自然災害が起きた際、洪水などの水の圧力を逆に利用して止水板を浮上させる、という仕組みの製品だ。通常は表に出ないシステムであり、新築時から設置すれば外見的にもコスト的にも効率よく水害に備えられる。また、天井スペースに格納しておいた止水板が必要に応じて降りてくる『アクアブロックフォール』は遠隔で監視

および操作が可能で、停電時にも利用できるため非常に優秀な装置として注目されているそうだ。工事も比較的簡単で、本来1週間以上かかる作業が最短一晩で済むという合理性も魅力である。

この製品の改良を行う中で、知人に紹介を受けた弁理士から「新規性の高い貴重な技術であるため、特許を取った方がいい」とアドバイスを受けた。当社は展示会にも積極的に参加していたが、新規性を喪失させないためには出展前の知財取得が重要であると聞き、弁理士の迅速な協力もあって無事取得に至ったという。

利用者の立場に寄り添った介護用ベッドも開発

近年では、新たに商標を取得した介護用ベッド『入浴タイムズ』も当社の印象的な製品だ。寝たきりの利用者でもそのままの姿勢でベッドから浴槽に移ることができるのが強みである。タイトルは誰もが頭に留めやすい語呂合わせにしようとしたが、類似品が見受けられたり、既に使用されていたりで、なかなか苦労したそうだ。しかし、最終的には製品の特性が伝わりやすく、かつ馴染みのある響きの商標に仕上がった。入浴タイムズはビッグサイトの展示会に参加した際にも、足が不自由な利用者から「人に迷惑はかけたくないが、気兼ねなくお風呂に入れるのは嬉しい」と非常に喜ばれたという。

機能性を重視したデザインも評価され、現在は意匠権

も申請中だ。自宅でも気軽に入浴できることから、今後ますますの需要の高まりが期待される。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

知財取得における苦悩



こういった製品のアイデアは、基本的に藤井社長が考案している。とはいえ知財の取得にあたっては、「弁理士との相談において製品の特徴や新規性を説明する際、互いの理解を深めていくのが難しい部分も少なくない」と藤井社長は話す。そんな時は図面ではなく、より分かりやすいスケッチを作成するなど、できる限り専門性の違いによって生まれる距離を縮める努力を行っているという。

また、製品の改良を重ねる中で結果的に二重申請になってしまった経験もある。同じ内容を二度申請すると、その分コストがかかる。しかし、取得したいタイミングや先を越されるリスクなどを踏まえ、仕方のないことと割り切って申請に至った。

「当社において、知財はどちらかといえば自社を守るためのものという側面が強い」と藤井社長は話す。以前は独自性の高いアイデアであっても、良い方向に広がっていけばそれでいいと考えていたこともあった。しかし、他社に特許や商標を先に取得されてしまうと、自社でも製造ができなくなる恐れもあることに危機感を覚えたという。

また、「スピード感を大切にしたいビジネスを行うためのベースがあればあるほど新しいものづくりはしやすい」とも語った。自社だけでできない場合もあることを念頭に置きながら、様々な人の声を聞き、着実に進めていくことで効果的な活用に繋げてきた。まずは行動し、耳を傾ける。それが新たな一歩に繋がる。



止水ユニット AQUA BLOCK FLOAT



止水板収納 AQUA BLOCK FALL



入浴タイムズ plus トイレ

社内のみならず展示会でも異なる視野の意見に耳を傾ける

当社では藤井社長が心がけている「人の話に耳を傾ける」姿勢が、事業、そして知財取得に現れている。知財が関連する製品の開発や販路開拓には、事業再構築補助金やものづくり補助金などを利用することもあるそうだが、これも知人から話を聞き、



知的財産活用のポイント

藤井社長自ら申請を行ったという。また、大型の展示会にも積極的に足を運び、異なる目線の意見も幅広く吸収している。自社で設営も対応可能で、コスト面の問題も少ないがゆえにこういった機会は貴重な体験として活用しているとのこと。いくら自分が良いと思って作っても、ニーズを得られなければ売상이外部からの評価は見込めない。アイデアを形にする際は、まず多くの人の声を聞くことも重要だ。

COMPANY DATA

取材：2024年3月

企業名：株式会社アイガー産業 所在地：東京都大田区田園調布2-28-3 電話番号：03-5948-5577

URL：<https://www.eiger.co.jp/> 創業：1986年 資本金：2000万円 従業員：8名

